



## 第54回日本小児感染症学会総会・学術集会 ランチョンセミナー12

# 小児呼吸器感染症の現況 ～小児呼吸器感染症診療 ガイドラインを踏まえて～

座長



尾内 一信 先生

川崎医療福祉大学 医療福祉学部 子ども医療福祉学科 特任教授

演者



大石 智洋 先生

川崎医科大学 臨床感染症学教室 主任教授

日時・会場



2022年 **11月6日** (日) 12:10～13:00

アクロス福岡 **F会場** (608会議室)(中継:605会議室)

〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神1丁目1番1号

※本ランチョンセミナーは整理券制となります。

配布日時: 11月6日(日) 8:00～12:10

配布場所: アクロス福岡 4F ロビー

※会場には整理券をお持ちの方から優先的にご入場いただけます。

※整理券はセミナー開始5分後に無効となり、その後は先着順に入場していただきます。

予めご了承ください。

共催: 第54回日本小児感染症学会総会・学術集会 / 富士フイルム 富山化学株式会社

## 小児呼吸器感染症の現況 ～小児呼吸器感染症診療ガイドラインを踏まえて～

**大石 智洋 先生** (川崎医科大学 臨床感染症学教室)

薬剤耐性菌の脅威が叫ばれ、それに対抗すべく、薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプランが施行されてから、5 年以上経過した。

その間、2020 年からは COVID-19 の未曾有の大流行により、感染症の脅威が全世界に再認識された。そして、感染対策の徹底や接触機会の減少により、COVID-19 の流行後、殆どの小児感染症は一時期激減した。

しかしながら、徐々ではあるが感染対策に伴う様々な制限が緩和され、特に小児では低年齢を中心にマスク着用が難しい事もあり、これまで抑制されていた小児の感染症についても、RS ウイルス感染症などをはじめ、再び感染の拡大がみられるようになった。

COVID-19 の流行前、前述の AMR 対策として、ガイドライン等が掲げられ、特に小児呼吸器感染症は小児感染症の中でも日常診療で最も遭遇する機会が多いため、抗菌薬適正使用について、本テーマで取り上げる小児呼吸器感染症診療ガイドラインの他、抗微生物薬適正使用の手引きや気道感染症の抗菌薬適正使用に関する提言の中にも取り上げられた。

それに相まって、COVID-19 の流行による感染症全体の減少もあり、近年、抗菌薬全体の使用量が減少したというデータが散見され、薬剤耐性菌の抑制には適している環境と言えるが、前述のように小児呼吸器感染症が再拡大してきているため、COVID-19 のみならず、他の小児呼吸器感染症にも再度目を向けていかなければならない。

本セミナーでは、小児呼吸器感染症の現況につき、まもなく改訂される小児呼吸器感染症診療ガイドラインにも触れながら、概説したい。